



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：大倉佳宏、川上和徳
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 川上和徳
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail jpicaardk@yahoo.co.jp

★ 第26回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会、第33回四国地域医学研究会 合同学術集会のご案内（第二報）

大倉佳宏 （健生石井クリニック）

『第26回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会・第33回四国地域医学研究会 合同学術集会』を、徳島県徳島市にて下記の日程で開催いたします。

- 開催日時 2026年11月7日（土）13:00～18:00
2026年11月8日（日）8:30～12:20
- 会場 徳島県医師会館（徳島県徳島市幸町3丁目61） ハイブリッド開催（Zoom）
- プログラム（予定）
 - 〈第1日目〉11月7日（土）
 - 13:00～13:20 四国地域医学研究会総会
 - 13:30～ 受付、Zoom入室開始
 - 14:00～ 開会式
 - 14:10～ 日本プライマリ・ケア連合学会理事長 挨拶
筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 教授 前野哲博 先生
 - 14:30～ 一般演題（1）
 - 15:30～ 特別講演
岡山家庭医療センター 奈義・津山・湯郷ファミリークリニック所長 松下明 先生
 - 16:40～ シンポジウム 「ひろげる、ひろがる総合診療」
 - 18:10～ 四国ブロック支部総会
 - 19:30～ 懇親会（ホテル千秋閣）
 - 〈第2日目〉 11月8日（日）
 - 8:30～ Zoom入室開始
 - 8:30～ ポートフォリオ発表会
 - 10:00～ 一般演題（2）
 - 12:10～ 閉会式・次回開催県挨拶
- 各締め切り日
 - 【一般演題申し込み】 2026年10月9日（金）
 - 【演題抄録】 2026年10月16日（金）
 - 【ポートフォリオ発表申し込み】 2026年10月9日（金）
 - 【参加申し込み】 2026年10月30日（金）
 - 【懇親会・宿泊・託児所申し込み】 2026年10月9日（金）
 - 【発表スライド】 2026年10月30日（金）

- 申し込みフォーム

こちらの[登録フォーム](#)からお申し込み下さい



- オンライン参加について

オンラインにて参加する場合、Zoom の表示名を「氏名・所属」に変更してください。

出席確認のため必ず変更をお願いします。

- 会費

大会参加費 無料

懇親会 7,000 円 (学生 1,000 円)

【懇親会申し込み締切り】 2026 年 10 月 9 日 (金)

- 託児所

会場内に託児所を準備します。(1 児 1 日あたり 1,000 円)

【託児所申し込み締切り】 2026 年 10 月 9 日 (金)

- 単位 (申請予定)

- 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・家庭医療専門医更新のための生涯学習単位
- 日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師認定単位
- 新・家庭医療専門医制度における off the job トレーニング単位
- 総合診療専門医更新のための単位 (学会参加後、各自で申請必要)

- 一般演題 募集要項

1. 内容

プライマリ・ケアに関すること。

専攻医にとって「学会発表」に相当しますので、積極的な応募をお待ちしています。

2. 発表時間

発表 6 分、質疑応答 3 分を考えていますが、状況により調整する場合があります。

3. 演題の採否

実行委員会で検討の上、決定いたします。

4. 演題申し込み

演題名、所属、演者、共同演者、抄録内容 (600 字程度) を作成の上、申し込みフォームから申し込みをお願いします。

地方会参加申し込みと共通の登録フォームとなります。先に演題申し込みを済ませてから後日抄録を入力していただいてもかまいません。内容変更などが生じた場合は、事務局までご連絡ください。

【演題申し込み締切り】 2026 年 10 月 9 日 (金)

【演題抄録締切り】 2026 年 10 月 16 日 (金)

5. 発表形式

現地/オンラインどちらからも可能です。

一般演題は全てパソコンによるプレゼンテーションとします。現地で発表される方は、事務局が準備し

たパソコン (Windows10) を用いて発表していただきます。オンラインで発表される方は、ご自分のパソコンで画面を共有するか、事務局が画面共有およびスライド操作をして、ご発表していただきます。

6. 発表データ

Microsoft PowerPoint2003 以上で作成したデータに限り使用可能です。スライド縦横比は 16 : 9 または 4 : 3 のいずれかとしてください。レイアウトの崩れ防止のため、使用するフォントは游明朝、游ゴシック、Arial を推奨します。

データは事前に、発表資料提出フォームにて受け取り予定です。演題応募していただいた方に、後日改めてご連絡いたします。

【発表スライド締切り】 2026 年 10 月 30 日 (金)

7. 四国ブロック支部論文集への寄稿について

演題発表いただく方には、四国ブロック支部論文集への寄稿をお願いしています。寄稿は任意ですが、発表のスライドや原稿を定型の Word ファイルに貼り付ける程度の作業ですので、ぜひご協力をお願いします。詳細は、地方会前にメールでお送りする原稿依頼でご確認ください。

● ポートフォリオ発表 募集要項

1. 日本プライマリ・ケア連合学会の新・家庭医療専門研修プログラムにおけるポートフォリオ領域から 1 つをお選びください。2024 年 6 月に改訂されていますのでご確認ください。https://www.primary-care.or.jp/nintei_fp/case_sk.php

2. 発表時間

発表 15 分、ディスカッション 15 分と考えていますが、状況に応じて調整します。

3. 演題の採否

実行委員会で検討の上、決定いたします。

4. 演題申し込み

共通の登録フォームから申し込みください。領域の変更などが生じた場合は、事務局までご連絡ください。 【演題申し込み締切り】 2026 年 10 月 9 日 (金)

5. 発表形式

一般演題 募集要項 (5) に準じます。

6. 発表データ

一般演題 募集要項 (6) に準じます。 【発表スライド締切り】 2026 年 10 月 30 日 (金)

7. 応募資格

家庭医療専門研修プログラム、新・家庭医療専門研修プログラム、総合診療専門研修プログラムの専攻医であること。

● 会場案内

徳島県医師会館 (徳島県徳島市幸町 3 丁目 61)

● 懇親会会場

ホテル千秋閣 (徳島県医師会館 横)

● 宿泊

下記のホテル数室を事務局にて予約しています。下記ホテルへ宿泊希望の方は申し込みフォームにて参加申し込み後、宿泊予約フォームにてご予約ください。予約は先着順です。予約後のキャンセルは事務

局へ電話にてご連絡ください。システムの都合上、予約が重複してしまう場合があります。その際は、事務局よりご連絡いたします。こちらの[予約フォーム](#)からお申し込み下さい。

【宿泊申し込み締切り】 2026 年 10 月 9 日 (金)

- 問い合わせ先 (事務局)

徳島健生病院 医局事務課 平岡・外山、 医師臨床研修センター 坂本

【住所】 〒770-0805 徳島県徳島市下助任町 4 丁目 9

【電話】 088-622-7771 (代表)

【メール】 kenshu@kenkou-seikyou.com

- 四国ブロック支部ウェブサイト

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-shikoku/archive/index.html>

- 本大会ウェブサイト

<https://sites.google.com/awa-fp.com/pc202611/main>

★ 日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック HITO 病院サイトビジット報告

専門研修支援委員 植本真由 (高松平和病院)

2026 年 8 月 27 日、日本プライマリ・ケア連合学会専門研修支援委員の原穂高先生 (愛媛生協病院) と植本真由 (高松平和病院) の 2 名で、愛媛県四国中央市にある社会医療法人石川記念会 HITO 病院をサイトビジットしました。

サイトビジットの目的は、四国ブロックで研修を行っている専攻医の研修実態や、専攻医・指導医の困りごとの把握、そして四国ブロック内で家庭医療・総合診療研修に携わる者同士の交流を図ることです。午後から訪問し、指導医や専攻医の先生方からお話を伺ったほか、総合診療科部長の五十野博基先生に院内を案内していただきました。

HITO 病院は 228 床 (一般病床 86 床、HCU12 床、SCU6 床、感染病床 4 床、地域包括ケア病棟 53 床、緩和ケア病棟 17 床、回復期リハビリテーション病棟 50 床) を有し、愛媛県東部の医療を担う総合病院です。1976 年、地域に救急を受け入れられる病院が十分になかったことから、石川繁一医師が開院した石川外科医院をもとに発展してきた経緯があり、現在でも愛媛県東部の救急医療を一手に担っています。全国的には、先進的な医療 DX の取り組みでも知られています。

現在、1 名の新家庭医療／総合診療専攻医、2 名の総合診療専攻医がプログラムに在籍しており、訪問時はそのうち 1 名が HITO 病院で研修されていました。今回の訪問で特に印象的だったのは、総合診療科でのチーム診療と、院内チャットを活用した情報共有です。専攻医と指導医・上級医の間でタスクを共有・見える化し、診療の進捗や必要な対応を確認できるようになっています。半日滞在しただけでも、指導医や看護師など病院職員とのさまざまなチャットでのやり取りが見られ、専攻医の診療へのフィードバックやタスクの確認などが行われ



ていました。チャットでの情報共有に加えて、対面でも気付いたことをその場でフィードバックするなど、日々の診療そのものが教育につながる環境と感じました。

また、専攻医には週1回、半日の救急担当日や月3回程度の当直があり、救急搬送されてくる患者さんの対応を行います。院内スマートフォンからカルテの確認や指示出しができるため、指導医が別の場所にも患者さんの人数や状態を確認し、必要時には指導医がヘルプに入るなど、ICTを活用しながら安全に救急診療を経験できる体制が整えられていました。産婦人科などの一部診療科を除き、要請のあるほとんどの救急車を受け入れており、各科にも垣根なく相談できるため、専攻医がさまざまな患者さんに対応しながら、幅広い診療経験を積める環境となっています。専攻医の日々の困りごとにも指導医や上級医にすぐに相談できる関係性があり、指導医との個別面談の機会も設けられていました。チーム全体で専攻医の状況を把握しながら、一人ひとりの個別性に配慮した教育が行われていました。専攻医の満足度も高く、充実した研修が行われていると感じました。

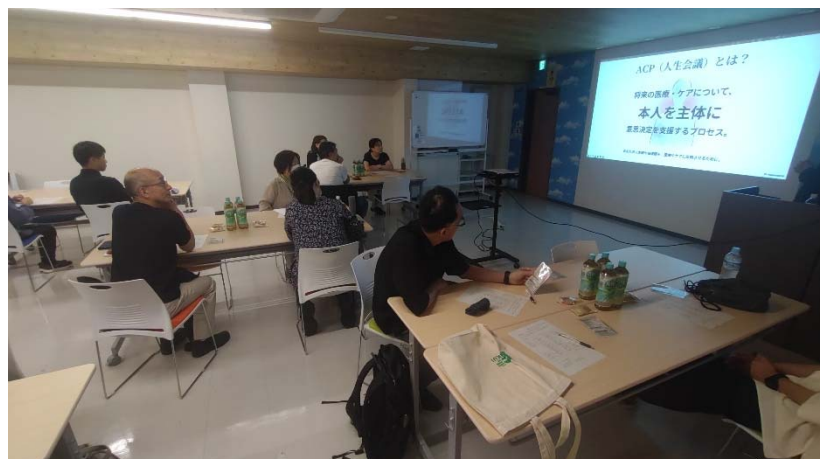
お忙しいところご対応いただいた HITO 病院の先生方、本当にありがとうございました。来年度以降も四国ブロック内でサイトビジットを行う予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

★ 総合診療セミナー「価値観に寄り添う ACP 実践ワークショップ」を開催報告

岩下演久 (高知大学医学部家庭医療学講座)

高知家総合診療専門研修プログラムの主催で ACP に関するセミナーを開催しました。講師として飯塚病院の地域連携・緩和ケア科の竹下隼人先生と総合内科の山本 幸近先生にお越しいただきました。高知家総合診療専門研修プログラムの専攻医、指導医はもちろん、総合診療を進路に考えてくれている研修医、地域で活躍される保健師や次の世代の看護師の育成に関わる方にも参加していただき、準備にあたった者として大変ありがたく感じました。

セミナーは、総論として「ACP とは何か」を説明いただいた後、実際に行おうとするとなかなか上手くいかないのはどのような事に原因があるのか、それを解決する為に 3 Stage protocol を意識する事、特に Stage 2 で患者さんの価値観を深く理解することの重要性和、その為の方法として知っておくべき二つのルールと掘り下げる 4 つの項目についてお話を頂きました。その後、実際に医師役と患者役に分かれて患者さんの価値観を掘り起こすロールプレイを行いました。外来にいられている慢性心不全の車椅子の高齢の女性や入院中の嚥下機能が低下した高齢男性のご家族に対して今後のお話をする、という実臨床でもよく遭遇する症例を準備していただき、教えていただいた事を意識して演習を行いました。意識して行おうとすると、患者さんの価値観を拾い上げることの難しさを改めて感じましたが、普段意識せずにやっていることがどのような意味を持つのかを言葉にさせていただいた事で、自身の ACP への取組みを振り返って、自身の課題も見つけることも出来ました。また、今回医師だけでなく保健師、看護師の方にも来ていただいた事で、それぞれの職種で感じていることを共有することも出来ましたし、今後 ACP に関わる多くの職種で価値観を共有する事の大切さを改めて意識することが出来ました。



受講後のアンケート(回答者 20 人)では、「全体的な満足度を教えてください」という質問には、非常に満足した 50%、満足した 45%との回答があり、参加者に満足いただけたのではないかと思います。また、セミナーで教えていただいた 3 Stage protocol についても、「3 Stage Protocol はあなたの ACP 実践に役立つと感じましたか?」という質問は 非常に役立つと感じた 65%、役立つと感じた 30%と、学んだ事が今後の実践に活かせると感じていただけたと思える結果となりました。自由意見でも「患者さんの価値観を軸にした、医療者の押し付けではない ACP を心がけようと思いました。」や「関わるすべての職種があらゆる場面で本人と家族の想いが聴けるようになったら良いと感じました。」といった意見を頂けたことから、参加された方にとって有意義なセミナーとなったことが伺えました。竹下先生、山本先生に心より感謝申し上げます。

★ 【開催報告】「第2回うどんそばカンファレンス in 綾川」 盛会のうちに終了いたしました！

横田雄也 (かがわ総合診療医センター)

2026 年 7 月 4 日 (土) から 5 日 (日) の 2 日間、香川県綾川町で「第2回 うどんそばカンファレンス」を開催しました！このカンファレンスは、香川県と島根県で総合診療・地域医療に携わる医師や医学生、地域住民、行政職員の皆さまが集まり、一緒に学び、語り合う交流の場です。昨年の島根県・隠岐での開催に続く 2 回目の今年は、香川県綾川町での開催。会場は、綾川町国保総合保健施設「えがお」と「いきいきセンター」、そして宿泊と交流会の会場となった柏原溪谷沿いのキャンプ場「TaTuTa の森」です。



綾川町国民健康保険陶病院・綾上診療所、かがわ総合診療医センターが主催し、島根大学医学部附属病院総合診療医センターに共催いただいて、両県あわせて 50 名を超える方々にご参加いただきました。「うどん (香川)」と「そば (島根)」という両県それぞれの名物を囲みながら、世代や立場、地域の違いを越えて、これからの地域医療を自分のこととして考える 2 日間になりました。

カンファレンス初日は、綾川町うどん研究会の皆さまが振る舞ってくださった手打ちうどんを、香川・島根両県の参加者全員でいただきました。香川のうどんの味はもちろんのこと、そのコシの強さに、島根の参加者みなさんが驚いていたのが印象的でした。

昼食のあとは、本カンファレンスのメイン企画のひとつであるセッション①「地域医療・ラボ ～5 つの種火を育てよう～」を行いました。香川・島根から 5 名の登壇者が、それぞれ 3 分間で「自分が思い描く 10 年後の地域医療」を”種火”として語りました。その後は、参加者が関心を持った種火のグループに分かれ、医学生からベテラン医師、事務・行政の方までが一緒になって、「そのビジョンをどうすれば実現できるか」を話し合いました。

立場の違う人が同じテーブルで話すと、一人では出てこない視点やアイデアが次々に出てきます。グループディスカッションのあと、各グループが「明日への構想」を発表し、会場全体で意見を交わしました。

全体ディスカッションのあと、表彰式も行いました。心を動かされたプレゼンターに贈る「ベスト・プレゼン賞」、実現してみたい構想に贈る「ベスト・プロトタイプ賞」を選び、受賞発表のたびに拍手が起こり、にぎやかな時間になりました。

夕方からは、「TaTuTa の森」に移動してのバーベキュー交流会！溪谷の風を感じながら炭火を囲むと、昼のセッションの話題もそのままに、あちこちで会話が続けていました。そのあとは有志で二次会も開かれ、これか

らの総合診療について、夜遅くまで語り合いました。

2日目は、綾上診療所の隣にある「いきいきセンター」で、セッション②「あやがわ・ラボ ～みんなで考える、これからの私たちの地域医療～」を行いました。このセッションには、綾川町・香川県の行政担当の方々や、地域住民の皆さまにもご参加いただきました。

はじめに、綾川町と香川県それぞれの行政担当者から、地域の医療・介護・保健・福祉の現状をお話いただきました。続くケースディスカッションでは、総合診療医が実際に経験した2つの事例をもとに、住民・医療者・行政が同じグループで話し合いました。「もし自分や家族がこの立場だったら」と考えてみると、同じ事例でも立場によって見え方がずいぶん違います。医療者だけでは気づきにくい暮らしの視点や、住民の方の率直な思いが出てきて、お互いの考え方を知るよい機会になりました。

セッションのあとの昼食は、香川名物・一鶴の骨付鳥と、島根から届いた出雲そばです。あつあつの骨付鳥とそばを味わいながら、名残を惜しむように会話が続けました。

「うどん」と「そば」、香川と島根。互いの地域が鏡のような存在になることで、それぞれの強みや魅力が見えてきます。今年のカンファレンスでも、両県の交流はもちろん、医学生からベテランの先生方、地域住民や行政の皆さままでが立場を越えて語り合い、地域医療を自分のこととして考える2日間になりました。

ご参加くださった皆さま、そして開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。来年は島根県での開催予定！今度は香川から島根にお邪魔いたします。来年も熱い「うどん（香川）」と「そば（島根）」の交流に期待です。



★ ポートフォリオ相談会のご紹介

馬越隆光 （綾川町国民健康保険陶病院）

2025年5月より、月1回の頻度で、各県の指導医層の先生方による専攻医の事例相談・ポートフォリオ相談会をZoomを用いて実施していただいております。本相談会は、日々の診療の中で経験した事例について専攻医が提示し、指導医の先生方から多角的な視点で助言をいただくことで、事例の振り返りやポートフォリオ作成につなげることを目的としています。

相談会では、専攻医が担当した患者・家族との関わりや、診療上困難を感じた場面、印象に残った事例などを提示し、事例の医学的な内容だけではなく、患者の価値観や生活背景、家族との関係性、医療者との関係性などについても議論が行われます。その中で、専攻医自身が当初は意識していなかった事例の意味や、家庭医療学的な視点について指導医の先生方から新たな気づきを得ることができ大変勉強になっています。また、提示した事例がポートフォリオのどの領域に該当する可能性があるかについて具体的に提案していただけることも、本相談会の大きな特徴だと思います。日常診療では、患者との関わりを経験していても、それがどの家庭医療学の領域に結びつくのかを自分だけでは十分に整理できないことがあります。指導医の先生方から領域やテーマについて示唆をいただくことで、これまで見過ごしていた経験をポートフォリオの題材として捉え直す機会となっています。

さらに、相談の過程で「患者本人はどのように考えているのか」「家族はどのような思いを抱いているのか」

「次回受診時に何を確認するとよいか」といった問いを投げかけていただくことで、自身の診療を振り返るきっかけにもなっており、相談会で得た問いを次回の診療につなげ、実際に患者・家族へ確認することで、新たな情報や気づきを得られることもあり、相談会が単なるポートフォリオ作成支援にとどまらず、日々の診療そのものを深める機会となっています。

本活動を通して、専攻医が一人で事例を振り返るだけでは得られなかった視点を指導医から得ることができ、経験を言語化・構造化する力の向上にもつながっていると感じています。今後も相談会を継続し、専攻医同士の経験の共有も図りながら、日常診療で得た経験を家庭医療学の学びとして蓄積し、ポートフォリオ作成につなげていきたいと思います。

※ポートフォリオ相談会はいつでも参加を募集しています。参加したい、見学してみたいという専攻医・指導医の方は、大倉までご連絡下さい。